

平成26年 7月 6日（日）作成

主担当：片山 敏郎・副担当：田村 武士

平成26年度教育事業評価 PDCAシート（プログラム開発・指導者・連携事業）

事業区分	プログラム開発・指導者養成・連携協力事業
事業名	徳地地域×自然の家コラボ！わくわくミーティング第1回
実施期間	平成26年 7月5日（土）～6日（日）
参加者	【参加人数／募集人数】＝17名／20名 【対象】徳地の町歩きをしてみたい人、徳地をもっと知りたい人
連携	【連携先】 【連携先との役割分担、連携内容】
PLAN	【事業企画にあたっての背景、対象ニーズ、現状分析、仮説等】 ○徳地地域にありながら、これまで地域と協働で事業を行うことがほとんどなく、双方の交流・協力が薄い状態にあった。お互いが顔の見える関係となって連携を深めることは重要であり、徳地地域全体の活性化にもつながる。 【事業の目的・目標】 ○徳地地域と自然の家との協働体制の構築を目的とする。徳地地域、自然の家、その他の個人・団体組織との相互理解が深まる。徳地地域での 【本企画のポイント（ウリ）】※継続事業については別紙記入 ○大学のボランティアサークルと連携して、毎年参加者をつのっている
DO	【事業実施・運営にあたり工夫した点】 ○最初の講義・実習に、徳地アドベンチャープログラム（TAP）を体験する時間を設定することを通して、参加者同士の協調性や信頼感を高め、今後のボランティア活動においても基盤となる考えを身につけた。 ○「青少年教育の理解」として、子どもの実態把握や子どもと関わるときの悩みや大切にしたいことなど、お互いが意見を交し合い、自分の思いを整理する時間を設けた。
CHECK	【支出経費／予算】＝19万円／20万円 【成果の具体的内容】 ○青少年教育の体験学習を支援するために必要な知識や技能について学び、青少年教育に関わっている講師の方たちや自然の家職員とのつながり、ボランティア同士の間を深め、今後のボランティア活動に対する意欲が高まった2日間になった。 ○今回の研修を「参加体験型学習」でプログラム構成していったことで、参加者同士のコミュニケーションを促進しただけでなく、ボランティア活動への参加意欲をさらに高めることができた 【見えてきた課題】 ○参加者のターゲット層をどこにするかによって、研修内容も変える必要がある。 ○今後の本所での活動を考えると、本所スタッフとの関係作りも重要になってくる。
ACTION	【今後の方策（次年度への改善点）】 ○2日目のお昼にチームで野外炊飯を加えると、チームづくりとしての流れが出来る。その後の振り返りで行う「ウィッシュ・ポエム」も大変盛り上がる事が予想される。

徳地地域×自然の家コラボ！わくわくミーティング第1回

期日 平成26年7月5日（土） 参加者 17名 6日（日）佐波川一斉清掃に参加（希望者）

☆徳地地域と自然の家の協働体制の構築を目的に「徳地地域×自然の家コラボ！わくわくミーティング第1回」を実施しました。
☆4班に分かれて、八坂の町を歩いて「徳地フィールドビンゴ in 八坂」を体験し、八坂ならではの「イイ!」「おお!」を見つけました。
☆地元地域から8名の参加がありました。が、「毎日通っている道でも、知らないところが多かった」の感想を聞くことができた。



**「徳地フィールドビンゴ in 八坂」に挑戦！ポイントの1つ！！
前方に県指定文化財「三重宝塔坂木」を寺宝とする妙寿院！**

参加者同士で「徳地フィールドビンゴ in 八坂」の活動に向け託宣タイム！



八坂八景で作成したシートの1枚です！イイ！おお！が別々の班で重複も！

八坂ならではの撮った写真の中から八坂八景を選択しました！



2日目は参加できるメンバーで三谷川沿いの清掃活動に参加しました！



【参加者の声】 ☆いつも通っている道であるが、ものや八坂の土地を詳しく見ることができ、新しい発見があった。 ☆みんなといっしょにワイワイ言いながら活動できるのがよい！ ☆地元の人と話ができ、人とのふれあいがいい！ ☆（活動の改善点として）写真のシートと記録用紙を1枚にして、ダミーのポイント無しにしたい！ ☆お寺や施設の利用について、どこまで入っているのか、判断が難しいので、立哨の人を配置できるようにしたい！ ☆給水とトイレポイントを地図シートの中にわかりやすく表記する！ ☆（安全面の気づき）国道を横断する箇所を少なくしたい！ ☆（徳地フィールドビンゴの写真シートから）可動堰の写真があり、水量の違いで異なって見えた！ ☆写真を撮った位置か、写った位置かがわかる説明にする。 ☆アップにしすぎてわかりにくい写真は、周囲を入れ、全体がわかりやすいものにしたい！ ☆橋の表記はひらがなの方がわかりやすい！